

【全国自治体職員研修】

二年前から開催されております「全国自治体職員向け講座」も今年度で第Ⅲ期を迎えます。今年度のテーマは、「コンクリートから人へ」を地域の子育て支援にいかん反映させるかです。一月の研修では、山梨県の Romantic Mothers Style、新潟県のマミーズ・ネット、奈良県の Doula Club、大阪市のハートフレンドの四つの子育て支援団体をあい・ぽーとにお招きし、自治体とNPOとの協働について、熱く語りあうとする企画です。

二月は、一日あい・ぽーとを休館にして、全国でも子育て支援に熱い街のひとつである浦安市に会場を移し、行政とあい・ぽーととステーションの協働による子育て支援について実体験していただきます。午前中は地域の育児力の向上についてのシンポジウム、午後は絵本や手作りおもちゃの講演、浦安市の子育てケアマネジャー、浦安市の支援者が自主的に立ち上げた「こんべいとうひろば」などの分科会があります。詳しくは、研修のご案内もしくはあい・ぽーとのホームページをご覧ください。

研修予定
日程 一月二十日(水)・二十一日(木)
テーマ 自治体とNPOとの協働による先進事例に学ぶ
対象 全国自治体の子育て支援行政担当者
日程 二月十五日(月)
テーマ 地域の子育て・家族支援者養成の意義を考え、その実践に学ぶ
対象 全国自治体の子育て支援行政担当者
子育て・家族支援者(港区・浦安市・千代田区)、一般の方

★応募方法…すでに配布させていただきました研修のご案内を「読んでいただき、添付の申込書にご記入の上、ファクシミリか郵送でお申し込みください。支援者の方、一般の方向けに、若干名保育(無料、ただし抽選)もあります。保育を希望される方は、申込用紙の欄外に「保育希望」とご記入ください。

「問い合わせ先」
あい・ぽーとステーション
子育て・家族支援者養成講座事務局
TEL 〇三(六六五七) 八五三九

【バックアップ研修開講予定】

〈港区〉

二月十五日(月) 十時十五分から十七時
内容 「全国自治体職員向け講座」
(住友生命助成事業 第Ⅲ期)聴講
会場 浦安市文化会館
(別途申込書を郵送いたしました。ご確認ください)

三月九日(火) 十五時から十六時三十分
内容 活動報告&話し合い
(三級・二級分かれての報告も予定)
講師 大日向雅美(本法人代表理事・子育てひろば「あい・ぽーと」施設長)
会場 子育てひろば「あい・ぽーと」二階

〈千代田区〉

二月四日(木) 十時から十一時三十分
内容 学童保育
講師 野中賢治(財団法人児童健全育成推進財団企画調査室長)
会場 未定

三月一日(月) 十四時から十五時三十分
内容 活動状況報告及び課題解決に向けた助言
講師 大日向雅美(本法人代表理事・子育てひろば「あい・ぽーと」施設長)
会場 西神田児童センター



Illustrated by GEN

〈浦安市〉

《一般コース》

二月二日(火) 十二時三十分から十四時
《対象 三級Ⅰ〜Ⅳ期生》
内容 活動状況報告及び課題解決に向けた助言
講師 野中賢治(財団法人児童健全育成推進財団企画調査室長)
会場 浦安市文化会館

三月二十三日(火) 十四時から十五時三十分
《対象 二級Ⅲ期生》
内容 活動状況報告及び課題解決に向けた助言
講師 大日向雅美(本法人代表理事・子育てひろば「あい・ぽーと」施設長)
会場 浦安市文化会館

《児童育成クラブ指導員コース》

二月二日(火) 十時から十一時三十分
内容 活動状況報告及び課題解決に向けた助言
講師 野中賢治(財団法人児童健全育成推進財団企画調査室長)
会場 浦安市文化会館

〈高浜市〉

二月十六日(火) 十三時三十分から十五時
内容 活動状況報告及び課題解決に向けた助言
講師 大日向雅美(本法人代表理事・子育てひろば「あい・ぽーと」施設長)
会場 高浜市中央公民館 和室

【養成講座開講情報】

〈港区〉

「子育て・家族支援者養成講座(二級Ⅶ期)」が開講されます。全講座を修了し、支援者として認定を受けた人は、子育て家庭あるいは支援者の自宅等で、保護者に代わって一時保育等を行う活動(有償)ができます。

開講日 二〇一〇年五月二十八日(金)
毎週金曜日で七月二十三日まで
講義と実習を含む三コマ

会場 子育てひろば「あい・ぽーと」
「問合せ先」
TEL 〇三(五七八六) 三二五〇

〈千代田区〉

子育て・家族支援者養成講座(三級Ⅴ期)
開講日 二〇一〇年五月十日(月)
原則毎週月曜日(一部別日あり)で
七月十二日(月)まで。

会場 千代田区役所もしくは西神田児童センター 他

〈浦安市〉

子育て・家族支援者養成講座(三級Ⅴ期)
開講日 二〇一〇年五月十四日(金)
原則毎週金曜日(一部別曜日あり)で
七月十三日(金)まで。

会場 浦安市文化会館(予定)

申し込み方法など詳細については、今後決まり次第、各自自治体の広報及び当方人のホームページでお知らせいたします。

お問い合わせの方などがいらっしゃいましたら、ぜひ紹介下さい。

「問合せ先」
あい・ぽーとステーション

子育て・家族支援者養成講座事務局
TEL 〇三(六六五七) 八五三九
千代田区担当 榎本・佐瀬・浦生
浦安市担当 榎本・古閑

全国子育て・家族支援者ニュースレター

あにわにわ通信 第8号

「あにわにわ」とは、ニュージーランドのマオリ語で虹を意味しています。

2010.1.20

特定非営利活動法人あい・ぽーとステーション発行

代表理事：大日向 雅美・新澤 誠治

子育てひろば「あい・ぽーと」

住所：107-0062 東京都港区南青山 2-25-1
電話：03-5786-3250 FAX:03-5786-3256
E-mail: info@ai-port.jp
URL: <http://www.ai-port.jp>

全国版子育て・家族支援者養成講座事務局

住所：〒106-0031 東京都港区西麻布 2-24-25-509
電話：03-6657-8539 FAX:03-3499-8539
E-mail: station@ai-port.jp
URL: <http://www.ai-port.jp>

新年の「挨拶」

法人代表理事・
惠泉女学園大学大学院教授
大日向雅美

穏やかな天候に恵まれて新年を迎えました。日頃より地域の子育て家庭のために、「尽力をいただいておりますこと、心より感謝申し上げます。新政権となり、「コンクリートから人へ」のキャッチコピーを耳にする昨今です。「人」を大切にするために、「人」を支え、支えあう「人」のあり方が問われる時代です。

昨年一年間、バックアップ講座等で、皆様のご活動の様子を直接お聴きする機会を持たせていただきました。誰かに必要とされる喜びに目を輝かせつつ、「自身の無力さに悩むお声も少なくないことが印象的でした。

「自分は本当に役に立っているのか。支援をしているつもりで、無用なことをしているのではないかと戸惑いを隠さないお声に接する度に、私は『賢者の贈り物』(オー・ヘンリー作)を思い出します。愛し合っている若い夫婦がクリスマスに相手が一番喜ぶ贈り物をしようとするのですが、貧しくてお金がありません。妻は自分の美しい髪



を売って、夫が宝物としている時計の鎖を求めます。一方、夫は妻の髪飾りを購入するために時計を手放します。

若い時の私は、いざ贈り物を交換する段になって、心尽くしの品が無用の品となったことに気づいた夫婦の虚しさばかりが思われました。しかし今は違います。「髪飾り」と「鎖」を見つめる夫婦の胸中に充ちている暖かな思いが伝わってきます。こうして「物語を読み返せるのも、支援者の皆様のお声が契機となっています。

人と人が思いあう関係には一見、無駄や無用と見えることが少なくありません。でもその中こそ真実の思いやりがあるのではないのでしょうか。相手を心から思いつつも、本当に役に立っているのかと自問自答する謙虚なお気持ちに、子育て中の若い親がどれ程支えられていることでしょうか。

今年一年の皆様の益々の「活躍をお祈りしております。

養成講座への事務局の想い

〈港区〉

大日向施設長が二〇〇四年の七月にNHKの「視点・論点」で発表した「地域の子育て力向上」と「女性の社会参加支援」という壮大な目的を同時に実現する養成講座の企画に、子育て支援の新境地が開かれる期待で胸がときめき、開講準備に参加出来ることがとても嬉しかったことが、昨日のことのように思い出されます。

二〇〇五年の一月から港区で開講した子育て・家族支援者養成講座も、五年間の歳月が経ち、港区では三級の認定者が二二八名(準認定者含む)、二級の認定者が一〇〇名(準認定者含む)も誕生し、千代田区、浦安市、高浜市にまで講座実施が広まりました。そして、子育て・家族支援者さんの活動は、今のあい・ぽーとにとっても、子育て家庭の利用者さんにとっても、なくてはならない存在になりました。支援者さんの熱心な学びと、心温かな活動で成し遂げられた子育て・家族支援活動の飛躍的充実に感謝しつつ、今後も「一緒に子育て・家族支援の新境地を開拓出来ることを願っております。今後とも、どうぞよろしくお願い致します。(池田)

〈千代田区〉

昨年十一月に日経新聞「二〇〇九年度に届けたい子育て支援大賞」を千代田区が受賞されました。おめでとうございます。千代田区は、待機児童ゼロに甘んじることなく更に子育て支援に力を入れていきます。本講座でも、「地域の保育の質向上」を目指し、密度の濃い講座を提供して支援者を育てています。その支援者の中には、支援活動に加え、「自分たちの手で」ということで本講座事務を担う区民もいます。温かくて質の高い子育て支援、「この助け合い精神が千代田区内に広がることを願い、亀割子育て支援係長のおっしゃる「子育て卒業組が子育て支援にまわって」循環してゆく将来を見据えて、「一緒に歩んで行きたい」と思っております。(榎本)

〈浦安市〉

三月に九州から引越してきたばかりの私にとって、この約半年で、浦安市のイメージは、「ディズニー」の街から「子育てのしやすい(子育てをしたい)街」へ大きく変わりました。

この半年間、三級・二級講座やバックアップ研修で、皆さんのお手伝いをさせていただきました。そこで私は、受講される皆さんやそれを支える浦安市役所の皆さんの「子育て支援に対する熱意」を直接肌で感じました。

「首都圏 子育てのしやすい街(駅)ランキング」で浦安市は、新浦安駅・浦安駅が一位・二位に上げられています。そんな浦安市の子育てを支える皆さんのお手伝いを、微力ではありますが、これからも続けさせて頂きたいと思っております。今後ともよろしくお願い致します。(古閑)

〈高浜市〉

毎週のように通わせていただいた三河高浜駅。七月の終わり、講座会場を包みこむような蝉時雨。一言一句聞きもらすまいとする受講生の眼差し。認定式に見せてくれた満面の笑み。まるで昨日のように思い出されるこれらのシーンには、厳しい講座を乗り越えてきたという自信にあふれた支援者の皆様の姿が映ります。事務局としてもう少し何かできはしなかったらどうかとつ向き加減な時の私をいつも支えてくれたのは、支援者さん一人一人の笑顔でした。私はこの一期一会を大事にしたいと思っております。あい・ぽーとでは認定を受けた日から本当のお付き合いです。このことを大切にしております。研修等でまたお会いできるときを楽しみにしております。(原口)



港区 二級

【講師からのメッセージ】

教育ジャーナリスト

青木 悦先生

「結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」という女性が六八％。師走に入ってもなく発表された内閣府の調査結果。二十代の女性の実に七割近くが、「子どもは要らない」と答えています。その理由の多くは「子育て支援の不備によるものです」。

「子ども手当もうれしいが、それよりも保育所、学童などの子育て支援にお金をかけてほしい」と、ある雑誌に書いたところ、早速「何にでも反対するな」とか、「子育て支援よりは子どもは母親と居る方が幸せなのだから…」など、私の言いたかったことと少々（かなり）ズれる反論がありました。どちらか男性からのものでした。

まだ、「こんなところにいるのだなあ」と、つくづく思いました。一口で「子育て支援」といつても、行政と共にどう場所を確保し、具体的にそれを作っていくという作業と同時に「子どもは母といる方がよい」という思想にも反論していかねばならないのです。

あい・ほーとの受講生の多くは、実在のひやかに考えていて、自由に語ってくれます。理論のみでない、目の前の子どもを思い描いて発言してくれます。こんな支援者が多くなつて欲しいと、心から思いました。

【受講生感想】

港区子育て・家族支援者養成講座

二級受講生 糠信 富子

私は六〇歳になり約四〇年間、看護の仕事をして退職しました。そんな時「あなたの力を地域の子育てに」という二級講座の受講者募集チラシを見て、自分でも何か出来たら良いなあと、受講しました。

講座の内容は、毎回とても新鮮で、自分の子育てがどうであったかと思い返したりしました。受講して、子育ての知識が新しくなり、自分を振り返ることが出来ました。そして、受講生仲間も出来ました。

二級の支援者として、実習の中でやりたいこと、出来ることは別かもしれませんが、膝が悪いので、自分の体力、持久力の範囲で、安全な保育をして、親や子どもに寄り添い、支え励ます支援が出来るようになりたいと思います。

私は、看護師資格があり、二級から受講しましたが、今回の受講で学ぶ意欲が高まり、三級も受講することに致しました。自分に出ることを見つけていきたいと思っています。



千代田区 二級

【講師からのメッセージ】

(社福)子どもの虐待防止センター

専任相談員

龍野 陽子先生

「多様な発達 家族への理解と支援」を担当させて頂きました。現在深刻さを増している児童虐待をテーマにした講義と演習です。三級では、虐待の概要について講義し、二級では相談の聴き方のロールプレーをしました。受講生は少なかつたのですが、皆さんとても熱心に取り組まれました。特に、ロールプレーでは、「私は話を聴くより、自分の意見をおしつけてしまおうか」とか「たまたま話して話を聴いてもらうだけで、次々話したくなる。話しているうちにこころが晴れてきた」との感想がありました。そういうことを実感していただくのがロールプレーの目的です。

都会の子育ては孤独です。子育ての大変さを口にしたくても、夫は忙しいし、実家の親は相談しづらかったり。ママ友はいても、親しいから「知られたくない」ともあるかも知れません。そんな時、子育ての先輩である支援者に、ぐちを聴いて欲しいということもあるかも知れません。「そんなこと」と思われるかも知れませんが、まさにそんなことが虐待の予防と深くつながる大事なことです。話を聴いてくれる人が「に」にいる。そのことがどれほど母親を勇気づけて支えるか。助言しなくてよいのです。ひたすらお母さんの気持ちに耳を傾けて頂きたいと思えます。



【受講生感想】

千代田区子育て・家族支援者養成講座

二級受講生 鍋木 美知子

貴重な講座をありがとうございました。幸運にも少人数で毎回がゼミのようでした。子育てが遠い記憶になっている私は、今回の講座で目が覚めたような気がしています。さらに不思議なのは子育てする親・特に母親に対して優しい気持ちになつていくということ。自分が子育てで精一杯の時にはこんな余裕はなかつたでしょう。

講座では「幻の子ども像 幻の母親像」が心に残ります。親子の関係がその人にとってどれだけ影響を及ぼし、どれだけ大切なものかをあらためて知りました。「軽度発達障害」では自分の無知を知りました。もっと学びたいと思っています。「病児・病後児の対応」は、よく理解して実践を積んだら不安を抱えたお母さんの助けになると思いました。面白かつたのは「リスクマネージメント」と「個人情報取り扱い」です。頭において行動したいものです。実習も新鮮でした。特に、心に残つたのは汐見稔幸先生、大日向雅美先生の支援の精神・親への理解などのお話でした。何のためにするのか? ということを常に自身に問いかけ、ひとつも幸せをもらえず支援ができればよいと思っています。

2009年度 養成講座報告

浦安市 二級

【講師からのメッセージ】

おもちゃのユーム代表

小松 和人先生

私のいる木のおもちゃの世界ではよく聞く売り文句。「いいおもちゃですよ」「すこく遊びこめますよ」。確かにその通り、間違つてはいません。でも大事なワードが抜け落ちていく気がするので

おもちゃの持つ面白さや遊びは人が関わることでより強く感じる事ができるものです。例えば積み木であれば、赤ちゃん一人ではまだ遊ぶことができません。しかしそこに大人が関わり、積んであげることでそれを崩す遊びが新たに生まれてくる。「いいおもちゃ」でも「遊びこめるおもちゃ」でも。物として与えるだけにとどまらずおもちゃの魅力なんて、実はたかが知れているのです。遊びの主体はいつでも「人」であつて、おもちゃは遊びを引き出すツールに過ぎません。また遊びのツールもおもちゃだけではなく、自然と生まれる遊びに真剣に関わりたいですね。きつと私たちが遊びに携わる時に漂う真剣さやワクワク感を子どもは自然と感じ取っていると思います。



【受講生感想】

浦安市子育て・家族支援者養成講座

二級受講生 横川 和子

二か月にわたつた子育て・家族支援者養成講座二級を終え、認定証以外にも仲間をはじめ多くのものを得られたように思います。ひろばスタツプをしていた時の三級講座は、子育て支援施設でのスタツプの専門性とは何かを自分で問い直す良い機会となりました。ところが二級講座は個人的な事情によりひろばスタツプを辞めたあとの充電期間に受講することになり、子育て支援にどのようなにかかわるのか、迷いを持ったままのスタートになりました。しかし講座を通して講師の先生方の子育て・家族支援に対する熱い思いと人に対するまなざしの温かさを感じ、人が人を信じ、支えあうことから生まれる地域の可能性を感じることができました。そして子育て支援者としての自分を再び具体的にイメージすることが出来るようになり、ささやかでも自分の出来ることをやってみよう、という元気をいただいたように思います。これからファミリーサポート特別会員として新生児の保育にかかわりながら、支援者としての自分を磨きつつ、子育て家族と地域との橋渡しをさせて頂いていただければうれしく思います。

【受講生感想】

高浜市子育て・家族支援者養成講座

受講生 大矢 恵美

現在、保育士として働いています。保育士・幼稚園教諭としての立場は少しずつ積み重ねてきている私ですが、母親としての立場はまだ経験したことがなく、保護者の方の相談に、安心して頂けるように答えられているのか、子どもの育ちを正しく捉えているのか、そんな迷いが生じていた時に今回の研修のお話を頂き参加しました。

講師の方々には現在の子育てを取り巻く状況、育ち、そして私の様な立場の人間がどういった役割を果たしていくべきか伺ううちに、今後自分がやっていきたい事、正しいかなければならない事、様々な事が少しだけ見えた気がしました。「自分は今まで「傾聴」する事が出来ていたか、子どもたちに対して「言葉が返って来ないから通じていない」ではなく、「こちらの言葉は理解していても、まだ大人の言葉で答えられない」として丁寧に対応していたらどうか。現段階の自分はまだまだ足りない事ばかりです。しかし講座で学んだ中から自分出来る事から始めてみよう、始めたらどう変わるのだろうかという期待や楽しみもあります。少しづつ、子ども達や保護者の方々に返していかれたらと思います。



高浜市

【講師からのメッセージ】

青山学院女子短期大学非常勤講師

中村 柁子先生

去る六月十五日、高浜市で開かれた、子育て・家族支援者養成講座に行つてきました。私の担当した講座は「絵本が、乳幼児の発達にもたらすもの」についてでしたが、参加者のみなさんにとって絵本は、とても日常的なものでありながら、どんな絵本がいかにとなると、あまり深くは考えたことがなかつたというのが大方の「ご意見」でした。

子どもの成長と絵本の関係や他のメディアとの違い、絵本の種類、良質な絵本の見分け方などを、実際に絵本を手にして実習を兼ね、みんなの前で読んでいただいたのですが、みなさんの積極的な態度に驚かされました。質問もたくさん出され、子ども理解をもっと深めたいという意欲を感じました。高浜市は独自の「子どもの権利条約に基づく「子ども市民憲章」を持つ街ですから、市民の間に、みんなで子どもを見ていこうという意識が根付いているのかもしれない。我が子が大事にされるように、よその子ども大事にしているように、子育てを個人に押し付けず、温かい目にながつていくのではないのでしょうか。文化の質も大事にしながら子育てを楽しんで欲しいと思います。